

課題名 大沼地域自然再生モデル事業の取組について（経過報告）

機関名 北海道森林管理局

所 属 駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター

氏 名 自然再生指導官 梅田 三幸

1. 課題を取り上げた背景

近年、地球温暖化防止をはじめとする環境保全の意識の高まりとともに、全国各地で自然再生活動や生物多様性の保全活動に取組むNPOや森林作業等を行うボランティア団体等の活動が活発になってきています。当ふれあいセンターが各種事業を展開している大沼周辺の国有林は、大沼国立公園内外のエリアに所在していることから、漁業関係者から水質保全、観光関係者から景観の維持向上、自然保護関係者から鳥獣生息環境の維持向上等が強く求められているなど、環境保全や森林整備に係る関心や期待の高い地域となっています。このため、平成16年度からここ大沼地区（吉野山国有林）において、これらの要望を踏まえる形で、「大沼地域自然再生モデル事業」を実施し、多様性のある森林再生を目指しているところです。

このモデル事業の取組みが一定期間過ぎたことから、これまでの経過を報告するとともに、新たに本モデル事業の対象地に編入となったカラマツ造林地の今後の取扱いについて考察します。

2. 取組みの経過

当モデル事業の実行にあたっては、林業の学識経験者、地域で活動している自然保護関係者、各種ボランティア団体を代表する者で構成する「大沼地域自然再生検討委員会」を立ちあげ、長期的方向性を示したランドデザインを策定して、計画的な取組みを展開しています。併せて事業を実行するための団体として、「大沼自然豊かな森づくり協議会」を設立し、これまで事業地においては、植付、下刈、保育間伐やモニタリング調査など各種事業を実行しています。

3. 実行結果

〔平成16年度〕

- ・大沼地域自然再生検討委員会の立ちあげ（以降毎年度開催）
- ・ランドデザインの策定

〔平成17年度〕

- ・大沼自然豊かな森づくり協議会の設立
- ・国際ワークキャンプの受入れ（以降毎年度受入れ）
- ・モニタリング調査の実施（植生調査）
- ・実行した事業（主伐、地拵、植付、保育間伐等）

〔平成18年度〕

- ・モニタリング調査の実施（植生調査）
- ・ドングリ播種の実証試験地の設定（以降毎年度調査）
- ・実行した事業（地拵、植付、下刈、保育間伐等）

〔平成19年度〕

- ・実行した事業（下刈、保育間伐、つる切り等）

〔平成20年度〕

- ・植生観察会の実施（平成21年度においても実施）
- ・現地検討会の開催（平成22年度においても実施）
- ・実行した事業（下刈、保育間伐、道路整備等）

〔平成21年度〕

- ・実行した事業（下刈、保育間伐、道路整備等）

〔平成22年度〕

- ・モニタリング調査（カラマツ林内）の実施（植生・鳥類調査等）
- ・実行した事業（下刈、保育間伐、道路整備等）

4. 考 察

新たに本モデル事業の対象地に編入されたカラマツ造林地の今後の取扱いについての課題等。

野生動物・鳥類生息調査により明らかになったエゾシカ・アライグマ等の取扱い。また、クマゲラ等キツツキ類の営巣木及び採餌木の取扱い等について今後検討することとなります。